

安全で安心な輸送を提供するため 職場の労働条件を改善させよう！



国労西日本

国労西日本本部

NO. 411

発行責任者 植田 重信
編集責任者 大北 真也

国労西日本HP



国労西日本

検索



TUNAGを利用中
組合員の皆さん登録しよう
登録は西日本本部または地方本部へ

働きやすい職場にするためにも
労働条件を改善させよう！

休みが全然とれない！

よりよい職場にしよう

世の中、労働人口減少が言われ、採用競争も激化しています。現場では退職する国鉄採用組の先輩方が多く、職場はまわらなくなり、年休が入らない、特休で仕事をしたりする労働者も増えていきます。



休暇と要員を増やせ！

会社は所要員を削り「人減らし合理化」を押し進めています。職場では休みが入らない、休みの呼び出し等、私たちの疲労は蓄積され続けています。



働きやすい、よりよい職場にするためには声をあげなくてはなりません。有休休暇がしっかりとれるようにするには、余裕ある要員配置が必要です。あらゆる制度を導入していても要員がいなければ活用できず意味がありません。有休もきちんと配置が要員です。



再雇用者に冷たいよね

職場で同じように働いていても再雇用者と正社員とは様々な違いがあります。



技術継承
年配者から技術者へ
先達の技術は後継者に伝承し、自分たちの力で、よりよい職場にしよう

承を行なうようにも求められています。しかし、再雇用になるとそれだけのことを求めておきながら賃金は下がります。扶養手当などもありません。



人手不足と言いながら...

JR西日本会社は「人財不足」への対応としてグランドシニア社員制度や社会人採用、カムバック採用等、複数の採用施策を進めています。しかし説明等でも「応募が集まりにくい」「地方では特に採れない」「技術系等がなかなか…」といった課題を聞きます。

採用にあたっては複数回の面接等を通じて選考が行なわれていますが、どのような能力や経験を重視しているのか、選考基準が不透明なものとなっています。鉄道関連の経験を持つ応募者が不採用となる一方で、業務経験のない応募者が採用されるケースも見られ、判断の根拠が分かりにくい状況です。



格差の無いように改善を

正社員の時と同じ仕事をしても、再雇用者になれば賃金が下がります。「同一労働・同一賃金」を考えると改善してもらいたいものです。

再雇用者になったからと言っても、生活を同じように下げないでほしい。契約も同じようにしてほしい。

同一労働・同一賃金
賃金
賃金

仕事をしても格差があります。低すぎる賃金、低すぎる精勤手当の改善が必要です。

一緒に声をあげよう！

改善する為には、不満の声をあげて、団体交渉で訴えることが大事です。



皆さんも共に声をあげて、職場環境や労働条件を改善させようではありませんか！

暑 ぎ る 毎 日 者 に す 暑 い で 働 る 手 当 を 報 告

酷暑続きの毎日 労働者の命を最優先に！

現場を襲う異常が日常に

近年、日本の夏は「暑い」では済まされないほどの厳しさを増しています。

全国の平均気温は過去30年間で約1℃上昇し、都市部ではヒートアイランド現象も加わって真夏日や猛暑日が増えていきます。猛暑日が続く状態を「酷暑」と言います。



鉄道現場も大変です

鉄道現場も例外ではありません。炎天下のホームで安全確認や誘導を行なう鉄道員たちは、直射日光と照り返しにさらされながら勤務をしています。



ます。冷房のない屋外作業では、体温上昇や脱水症状のリスクが高く、冷却ベストや携帯扇風機などの「暑さ対策装備」が欠かせなくなっています。気温上昇は季節の変化ではなく、働き方や安全管理を見直す警鐘でもあります。

命を守る対策を！

今後平均気温の上昇が予測される中、鉄道の現場では暑さと熱中症リスクは高まり、集中豪雨や台風の影響も強まります。気候変動は「遠い未来」ではなく、今まさに進行しています。関係機関も対策を



乗務員不足で公共交通が危機に！！

全国で、乗務員不足や利用者減少が進み、鉄道やバスが「いつものように走る」ことが難しくなっています。千葉市ではJR幕張駅～花島公園の生活路線が運転士不足で廃止の危機にあり、1日1,000人以上が利用する住民からは「なくなったら生活が成り立たない」と不安の声が上がっています。群馬県のJR吾妻線でも末端区間の赤字が深刻で、通学の高校生を支える路線の存続が不透明です。利用者などは署名やクラウドファンディングで「守りたい」と訴えています。

広島・岡山では、利用者いり方について議論がさるかが問われています。



を結ぶ芸備線が極めて少ない交通の再構築が求められています。バスに転換をどう移動をどう

しかし、バスも運転士不足で簡単には増やせる状況ではありません。代替手段すら確保が難しいのが現実で、これらは別々のニュースではありません。どれも「生活の足が静かに消えていく」という、私たちの暮らしに直結する問題です。通院、買い物、通学、移動ができなければ生活は成り立ちません。国や自治体は、乗務員の確保や免許取得支援、働きやすい環境づくりなど、早急な対策を行なうべきです。

私たちも、公共交通が当たり前ではなくなりつつある現実を見つめ、地域の足をどう守るのかを考える必要があります。暮らしを支えるための行動が、全国的に今まさに求められています。

気温上昇が続く未来に備えるためには、対策を「特別な行動」ではなく「当たり前

特別ではなく当たり前

を強化しなければ数十年でさらに気温が上昇する可能性を指摘しています。



の習慣”として根付かせることが重要です。こまめな水分補給、日陰の活用、外

平均気温の上昇は簡単には止められません。しかし、被害を減らし命を守るためには確実な対策が必

未来のために出来ること

出時間の調整など、日常の行動を暑さに合わせて最適化する必要があります。これは「いつか必要になる対策」ではなく「今から始めるべき当たり前の行動」です。



要です。今考える対策を社会の当たり前にするためにも、しっかりと声を上げる必要があります。